

P122

○磯貝雅道・中村達都・渡邊学・山岸紀子・吉川信幸

Blueberry latent virus の日本のハイブッシュブルーベリーからの検出

Isogai, M Nakamura, T. Watanabe, M. Yamagishi, N. and Yoshikawa, N.: Detection of Blueberry latent virus from highbush blueberry trees in Japan.

Blueberry latent virus (BBLV)は新しい科に分類されると考えられているが、その性質には未知な点が多い。日本のブルーベリー圃場で無病徵のハイブッシュブルーベリー樹を調査すると、約30%の割合でBBLVが検出された。日本のBBLV株をゲノム解析すると、全長3,434塩基対の二本鎖RNAで、アメリカ株のゲノムと100-99.9%相同性を持っているが、5'末端が3塩基長かった。*in situ hybridization*によりブルーベリー葉の切片を解析すると、ウイルスRNAは柵状組織、海綿状組織、維管束組織に局在していた。また、ウイルスゲノムのORF1タンパク質に対する抗体を用いたウエスタンプロットで解析すると、48 kDaのタンパク質が特異的にブルーベリー葉から検出された。そこで、イミュノゴールド電子顕微鏡観察すると、ORF1タンパク質は、細胞質に蓄積していた。BBLVは、日本で未記載であるので和名をブルーベリー潜在ウイルスと提案したい。

(岩手大農)

【発表希望分野】「ウイルス・ウイロイド病」

【発表内容】「分類・同定」